



第 106 回(平成 27 年 2 月 11 日)定例会の研究発表要旨

昭和初期 (60 年 — 90 年前) の

軽川風景を読む

富丘 野村武雄 氏

①、7 枚の地図・メモ・OHP の投影写真から読めること

明治 29 年の地図時代は、上手稲村、下手稲村、山口村 3 戸長村の役場は下手稲村軽川に上手稲から移されている(現生協ていね店向)。駅は『がるがわ』一つのみ。

手稲山から出る現在の川『軽川・三樽別川・中の川・富丘川』等は線路を越えて当時の発寒村(現西区)の大きな発寒川に全部合流して追分川となり最後は石狩川に注いでいた。(明治 17 年から『新川大排水の工事』が始まり次第に流れは変わる)

不思議なことに更に数本の川や小川が山裾を出て当時の国道(現二十四軒・手稲通り、旧国道)を過ぎ多くの湿原の中へと消えている……?

これは追分～稲積～宮の沢～富丘～本町～前田から石狩への一帯が大湿原(現大住宅地域)で、アイヌ語の『テイネイ』(濡れている土地、ハチャム川の水ゆるく広がる湿地の意味。手稲村の原名)や『ヤチ』(沢などの湿地、谷地とも書く)『メム』(泉、池、沼など)の豊かな水源となって注ぎ消えたように見えたのだ。

小川、メム、ヤチ等は旧国道沿いの山裾に多数あったので牧畜、水田、リンゴ・ブドウ果樹園の用水、火防用水にも活用。多くの野鳥、渡り鳥、野兔、カエル、トンボ、キリギリス、ヤブ蚊、どじょう等小魚、水バショウが生育するテイネイの地だった。

更に国道、旧国道沿いの山裾の各地に手稲山の豊かな『伏流水』によるメム(泉)が昭和 30～40 年代バブル経済の住宅地化まで「池や小川」の姿で散見された。(例えば、富丘ふくろう公園、星置緑地の水バショウ、富丘乙黒邸池跡、本町村田邸池跡、富丘小学校敷地・グランド用地、オリンピック団地周辺、富丘バス停、郵便局下手など)

『手稲村史原稿』に開拓初期は「軽川原野鶴(追分ノ湿地等ニ産卵)群ヲナシテ遊ビオレリ」と記し昭和 40 年代でも旧国道に雉(キジ)の姿がよく見られた。

このメム・ヤチ・テイネイの名残の様子を他 5 枚の昭和各年代地図で説明した。

②、事例研究『メム』の「村田邸池跡周辺地図」と村田呉服店(中間報告)

手稲中央小グランド横の小川遺構と村田邸池の繋がり、建設者村田呉服店の様子、隣接の藤の湯(手稲の温泉の元祖)の関連を御親族からの聞き取り視察を実施。

③、がるがわ(軽川)の由来はアイヌ語地名か?

『潤川カレカワ』(春先は水多く、夏は少なく涸れるが、台風で暴れ川)下手稲村の中央地域名の『ガルガワ』は和人の誤読が地域名となる。昭和時代の川の愛称は『大川オオカワ』で川べりの町内会名にも使用されている。

川のアイヌ語名は『トシリパオマナイ』(国作りの神の墓[富丘の丸山?])の上手にある川の意。石狩開建の説明板はほぼ適切)。明治 14 年[小樽手宮→幌内線]が開通し下手稲村の簡易停車場(フラグステーション)をガルガワと命名。手稲地域の愛称となる。

以上を故富樫政雄の油彩手稲風景、丸山周辺と三樽別川、村田邸と乙黒邸池跡、ふくろう公園、船木旅館、蓑輪商店、三樽別通行屋跡と荒川邸等の写真を投影説明。

「札幌本府から手稲区誕生までの変遷」について

稲穂 上仙 学 氏

1. 明治初期時代の札幌

- ①1869年(明治2年)
 - ・松浦武四郎が開拓判官に任命され、蝦夷地を「北海道」と名付ける。明治政府と考えが合わず辞職する。
 - ・島義勇が9月開拓使判官として札幌の街づくりに壮大な計画を立て取り組むも、経費に糸目を付けずに出費し財政が苦境に陥り更迭される。
- ②1871年(明治4年)
 - ・岩村通俊は島義勇の計画を引継ぎ札幌の街造りに取り組む。京都の街を参考に碁盤の目の市街を区画した。
移住者や土木作業員のために歓楽地「薄野遊郭」誕生する。
- ③1874年(明治7年)
 - ・黒田清隆第3代目開拓長官、明治3年から明治15年の間北海道における殖産事業の振興に尽くした。事業の推進のため多くの外国人を招へいし、官園、官営工場の建設に推進した。サッポロビールの原点である開拓使麦酒醸造所、札幌農学校の果たした役割は大きかった。
- ④1879年(明治12年)
 - ・札幌開拓使庁を「札幌本庁」と改称する。札幌区役所庁舎落成する。



2. 明治後期以降の札幌

- ①1886年(明治19年)
 - ・北海道庁が札幌に設置される。初代長官に岩村通俊が命ぜられる。
- ②1935年(昭和10年)
 - ・札幌市役所新庁舎建設し、昭和12年春竣工する。
北1条西4丁目(昭和9年札幌グランドホテル)
- ③1950年(昭和25年)
 - ・第1回札幌雪まつり開催する。
- ④1967年(昭和42年)
 - ・手稲町と合併する。
- ⑤1970年(昭和45年)
 - ・人口100万人超える。
- ⑥1971年(昭和46年)
 - ・地下鉄南北線開通する。札幌市役所新庁舎完成する。
- ⑦1972年(昭和47年)
 - ・アジアで初の冬季オリンピック大会開催される。
- ⑧1972年(昭和47年)
 - ・4月川崎市、福岡市と共に札幌市も政令指定都市に移行する。(7区一中央、北、東、白石、豊平、南、西)
- ⑨1976年(昭和51年)
 - ・地下鉄東西線開通する。琴似一白石間
- ⑩1986年(昭和61年)
 - ・国鉄駅一稲穂、稲積、発寒、発寒中央駅開業する。
- ⑪1988年(昭和63年)
 - ・地下鉄東豊線開通する。(栄町～豊水すすきの)
- ⑫1989年(平成元年)
 - ・厚別、手稲区の分区により、9区体制へ移行する。
- ⑬1992年(平成4年)
 - ・前田森林公園完成(昭和57年策定)
- ⑭1994年(平成6年)
 - ・地下鉄東豊線豊水すすきの～福住間開通する。
- ⑮1998年(平成9年)
 - ・清田区の分区により10区体制へ移行する。
- ⑯2002年(平成14年)
 - ・JR手稲駅完成する。
- ⑰2004年(平成16年)
 - ・市内87ヶ所出張所を「まちづくりセンター」に改編。
- ⑱2005年(平成17年)
 - ・ドクターヘリ北海道に初基地できる。(手稲溪仁会病院)
- ⑲2006年(平成18年)
 - ・山口斎場共用開始する。PMF方式による建設。
- ⑳2010年(平成22年)
 - ・税務部門を統合し、市税事務所5ヶ所に開設する。

次回の予定

今回は、定例総会及び懇親会です。会場予約の都合により、**4月22日18時**に行うことになりました。お間違いのないようにご参加ください。
会場は、第1・2会議室です。

分科会報告

★ 文芸サークル・開拓史研究部

2月の例会は、「風立ちぬ」の映画鑑賞を行いました。帰ってから、野村相談役からいただいた資料を読み直してみましたが、私には理解し難い映画でした。ここにその資料の抜粋を紹介します。(小田)

アニメ映画「風立ちぬ」余聞 — 堀越二郎と堀辰雄 —

宮崎は、零戦という世界で名機と謳われた戦闘機を設計した堀越二郎（1903～1982）という実在の人間に、作家堀辰雄（1904～1953）の私小説『風立ちぬ』の内容を重ね合わせ、大正から昭和にかけての日本の自然や風土の美しさ、日本人の精神の美しさ、日本そのものの美しさを描き出した。

堀越は、零戦を完成させ、その試験飛行を見て自ら「美しい」と呟いたという。

堀の『風立ちぬ』は実際の彼の生活にあった婚約者との療養所での共同生活、そして婚約者の死という事実を通して、死を見つめながら、つかの間の真の強い生命の燃え上がり（「風立ちぬ、いざ生きめやも」）を品位と洗練さで描いている短編小説である。この両者の作品の美しさを宮崎は実に立派に合成させた。

堀越は群馬県の小さな田舎町（現藤岡市）の出身。飛行機好きな少年は飛行機の設計を夢見て、土地の名門校である旧制藤岡中学を経て、1921年、旧制第一高等学校理科甲類に合格する。是は、当時としては大変な事。当時の国立総合大学（帝大と称された）は、内地で僅か7校。入学資格者は原則旧制高校出身者に限られた。全国の旧制中学のエリート達が目指した、3年間学ぶ旧制高校は全国で僅か38校だった。その旧制高校の頂点に立つと自他ともに認められていたのが旧制一高だったからである。

堀は1904年生れの東京下町育ち。東京府立第三中学校（現都立両国高校）に入学する。三中は下町のナンバーワン・スクール。ここを4年修了で一高理科乙類に合格する秀才。今で言う「飛び級」である。だから、1年早く中学を終えた堀は、堀越と同時期1921年に、一高それも同じく理科に入学したのだ。堀は、中学時代は文学に殆ど無縁だったようだ。三中の「学友会誌」には彼の名は無い。旧制高校の「理科」というのは、大学の工学部、医学部などへ進むコース。数学の出来る生徒が狙う。大体一学年200名。「甲類」「乙類」はクラス別け。入学成績で別けることもあるので、堀越の方が入試成績が良かったのか？

一方、堀越はひたすら勉学に励むタイプ。成績も抜群。夢見ている飛行機の設計の為の蓄積をしていく。そして1924年東京帝国大学工学部航空学科に入学、1927年、首席で卒業（旧制大学は3年）。直ちに強く請われて三菱内燃機製造（現三菱重工業）に入社する。

堀は肺病で休学したので、卒業は一年遅れ、しかも東京帝国大学は文学部国文科に1925年入学。理科系から文学へと転進を明白にする。在学中、肋膜炎で死に瀕し休学、卒業は1929年である。

進む道は異なったが、旧制高校三年間、約200人の「理科」という同類の同級生の2人の間に何か無かっただろうか。当然、顔ぐらいいは見知っていた筈だ。想像すると何か楽しい。

日本の、大正から昭和一桁時代の美しさを、このアニメ映画により感動し、感慨に耽ったので、たまたま2人の共通事項にこだわって思いを巡らしたのである。(山田博政)

(學士會会報 第905号：平成26年3月1日発行)

★ データ整理部

- ・ 前号では、酒井美意子著『ある華族の昭和史』の索引を作ると予告したのですが、申し訳ありませんが間に合いませんでした。5月の例会までに作ります。
- ・ 茂内会長の資料室の資料整理作業が始動しました。

手稲駅「あいくるパネル展」の報告

昨年末（H26.12.24～26）手稲歴史郷土資料館設置期成会主催で、「手稲山へ…オリンピックの夢ふたたび」をテーマに、① 札幌冬季オリンピック大会 ② 手稲鉱山 ③ 光風館 ④ 手稲前田農場山林のパネル展を実施しました。

手稲区民 500 人以上の来場者を得て、大いに PR することができたと思います。

開催に向けて、一ノ宮副会長の助言を戴き、札幌市立手稲中央小学校（櫻田隆広校長）のご配慮で札幌冬季オリンピック大会の歴史展示品を借用、展示させていただきました。さらに五輪の輪の一部（実物）も入手、展示に間に合いました。

このパネル展開催にあたり、打ち合わせや作成などに 3～4 日を要し、十数名の会員のご協力もいただきました。感謝の意を顕し報告とします。ありがとうございました。

（佐々木光男）

..... ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆

会員の広場

幼少期の思い出から郷土史研究会へ

前田 佐々木光男

札幌市民としてのスタートは東京オリンピック開催の翌年(1965年)春に親元を離れ、円山の裏参道沿にある寮生活からでした。(今から 50 年前で札幌の人口は 86 万人位だったと記憶しています)

1982 年、34 才の時手稲前田 5 番地(発寒勤労者団地)に移り、その後転勤で函館へ、さらに根室に転出、やっと札幌に戻りましたが再び単身赴任で函館、小樽へ。その後札幌に戻って 6 年後に退職しました。退職後は町内会活動に参加して手稲郷土史研究会に出会うことができました。新発寒小学校の「学びのサポート」にもご縁があり子供たちと一緒に学びました。在職時の点検調査業務に再任用で約 5 年勤めて二度目の仕事も終わり、今は年金生活を送っています。

「団塊の世代」と言われた私は、戦後の昭和 23 年、十勝平野の開拓村で生まれ、小学校は複式学級で、校長先生宅から有線の農村ラジオ（朝 2 時間、昼 1 時間）が流されていて、我が家には電気が無かったのでランプのホヤ磨きや天秤での水汲みは子供の仕事でした。親子の馬と、8 頭の乳牛(内 4 頭搾乳)がおり、一日も休むことなく家畜の世話と畑仕事に追われる農家で、農繁期には学校に行かずジャガイモの植え付け、豆まき(赤いダイヤと言われたアズキ)や草取り、秋の収穫期になれば芋ひろい、豆の刈り取り、牧草の収穫など小規模な農業と酪農を家族全員で分担しながら生活する開拓村の平均的な農家で育ちました。

10 才(小 4 年)の冬、私たち一家は離農して釧路へ向かう途中、汽車の車窓から見る夜の太平洋（白糠海岸や大楽毛海岸）の冬の荒波がとても恐ろしかったことを思い出します、そんな幼少期の記憶が開拓に興味を抱き手稲郷土史研究会に出会えたと思います。

田舎者の私でもこの手稲の歴史を学び、未来への夢や希望を探ることができるかもしれない、未来を担う子供たちに少しでも伝えられるかも知れない!?…今振り返るにせつかくの転勤先であった函館、根室、小樽の郷土史に少しでも触れておればと後悔しています。今は会員の皆様の研究発表がとても楽しみです。どうぞこれからも宜しくお願いします。

手稲研クイズ（手稲鉱山—その 1）

『手稲鉱山のあらまし』に次のような記述があります。空欄に適した数字、氏名、地名を入れてください。

明治 20 年代になって、星置に入ってきた〔1〕が、〔2〕附近で金鉱を発見し、明治 24 年に銀銅鉱の試掘願いを北海道庁に出願、〔3〕年に認可されている。

〔1〕は、その後私財を投じて〔2〕付近を中心に試掘を続けたが、良い成果があがらず、ついに試掘を断念して明治〔4〕年鉱業権を放棄している。

（ヒント：『手稲鉱山のあらまし』 P.7 参照）